2012年10月期 決算説明資料

2012年12月13日(木)
株式会社オハラ（証券コード：5218）

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

目　次

株式会社 オハラ

◆　2012年10月期 決算の概況　　P03～09

◆　2013年10月期 業績見通し　　P10～21

Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

2012年10月期 決算の概況

業績のポイント

株式会社 オハラ

<事業環境>

- デジタルカメラ市場は、コンパクトが価格下落に加えて数量減少傾向、一方、一眼レフ・交換レンズは数量鈍化ながら堅調に推移
- レアアース原料は、一般品の市場価格が需要減に伴い下落したものの、光学ガラス用高純度品は供給量が限定され下げ止まり
- HDD市場は、タイ洪水被害の影響から供給体制は回復するものの、期後半では需要減少による生産調整
- 露光装置市場は、半導体向けが低迷続くものの、液晶向けは期後半に中小型で持ち直し傾向

<当社業績>

- 光学ガラスは、一眼レフ・交換レンズ向けの需要増を背景に売上好調も、高価な仕掛在庫の影響で利益圧迫
- HD基板材は、新規開発品の本格的な市場投入が遅れ、需要も減少したことから工場稼働率が大幅に低下し採算悪化。後工程を減損処理
- 特殊ガラスは、露光装置向けは不調。石英ガラスは、堅調に推移

Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

業績サマリー

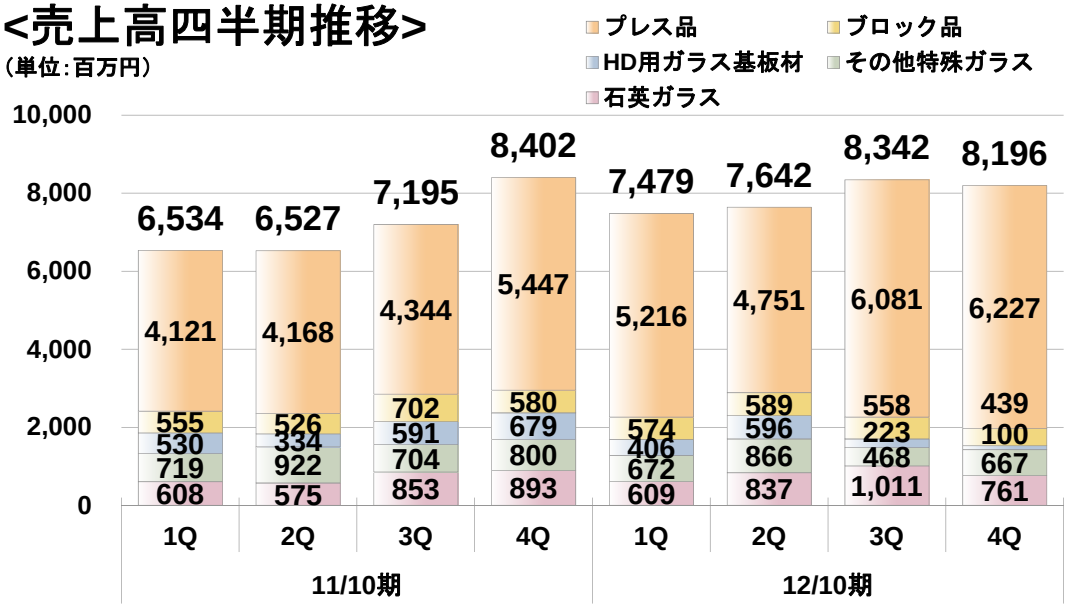
株式会社 オハラ

（単位：百万円、％）

	11/10期	12/10期	増減
売上高	28,659	31,661	3,001
			10.5%
営業利益	1,644	1,072	△572
[営業利益率]	5.7%	3.4%	△34.8%
経常利益	1,624	1,518	△106
[経常利益率]	5.7%	4.8%	△6.5%
純利益	866	475	△390
[純利益率]	3.0%	1.5%	△45.1%
為替レート			
円／1USD	80.71	79.07	期中平均
円／1EUR	112.37	102.17	

<売上高四半期推移>

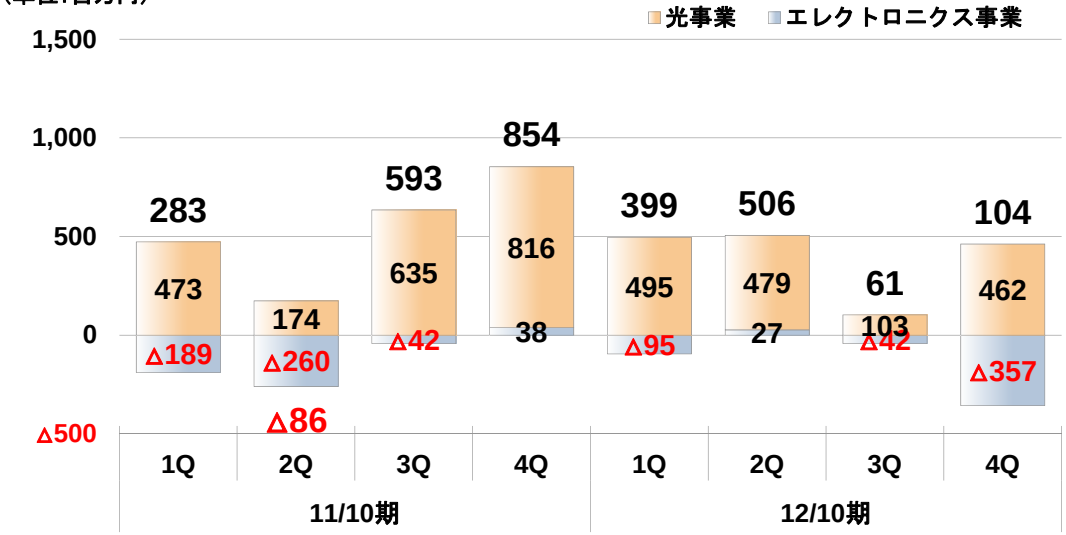
（単位：百万円）



<営業利益四半期推移>

※当期よりセグメント利益の算定方法を変更
過年度は遡及修正値

（単位：百万円）



Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

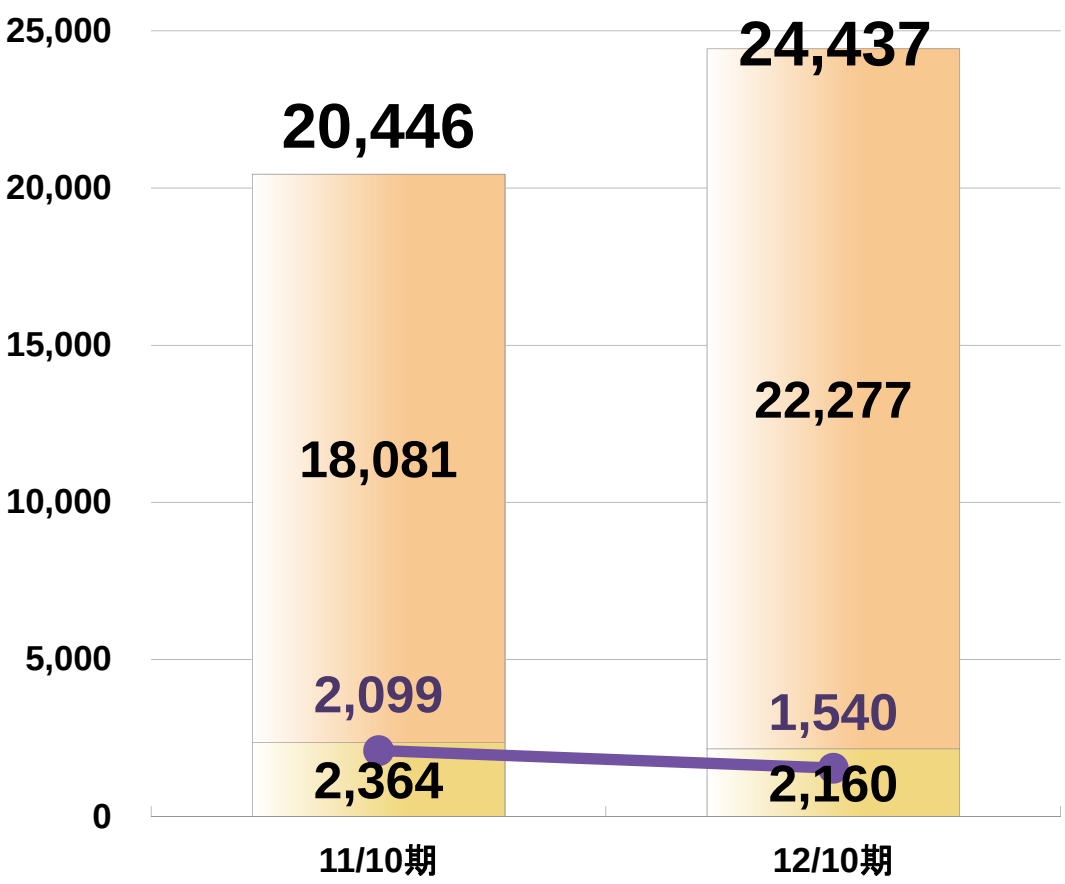
光事業

株式会社 オハラ

<通期対比>

（単位：百万円）

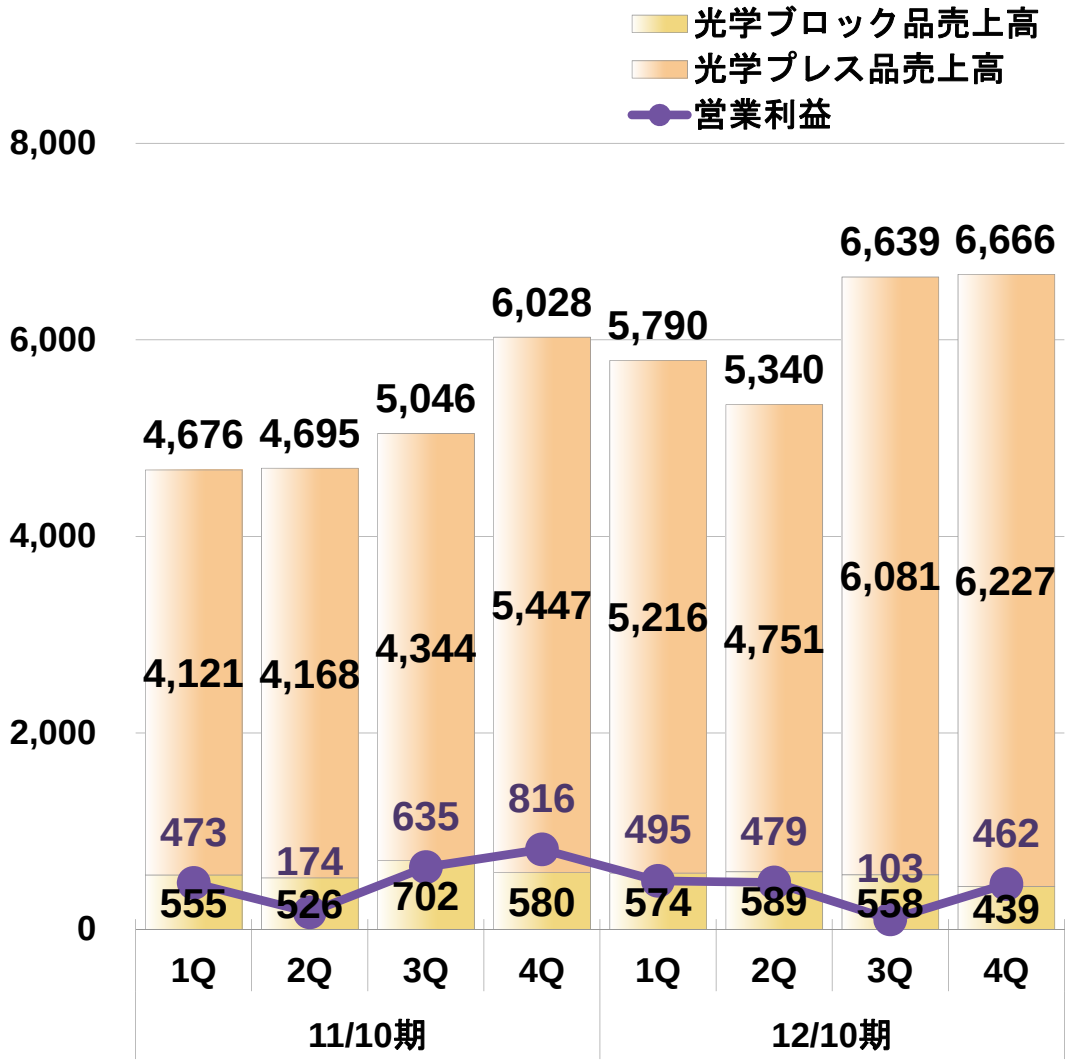
※当期よりセグメント利益の
算定方法を変更
過年度は遡及修正値



<四半期推移>

（単位：百万円）

※当期よりセグメント利益の
算定方法を変更
過年度は遡及修正値



Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

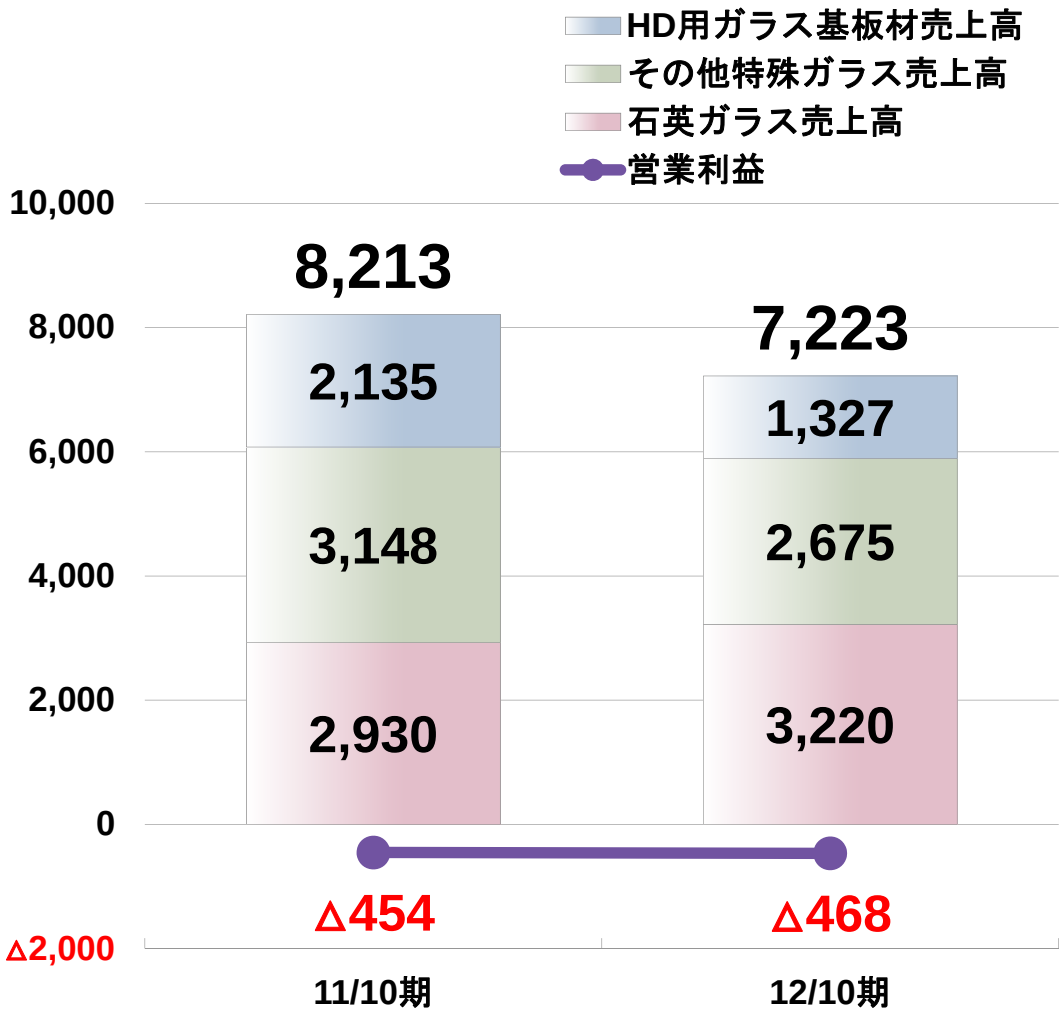
エレクトロニクス事業

株式会社 オハラ

<通期対比>

（単位：百万円）

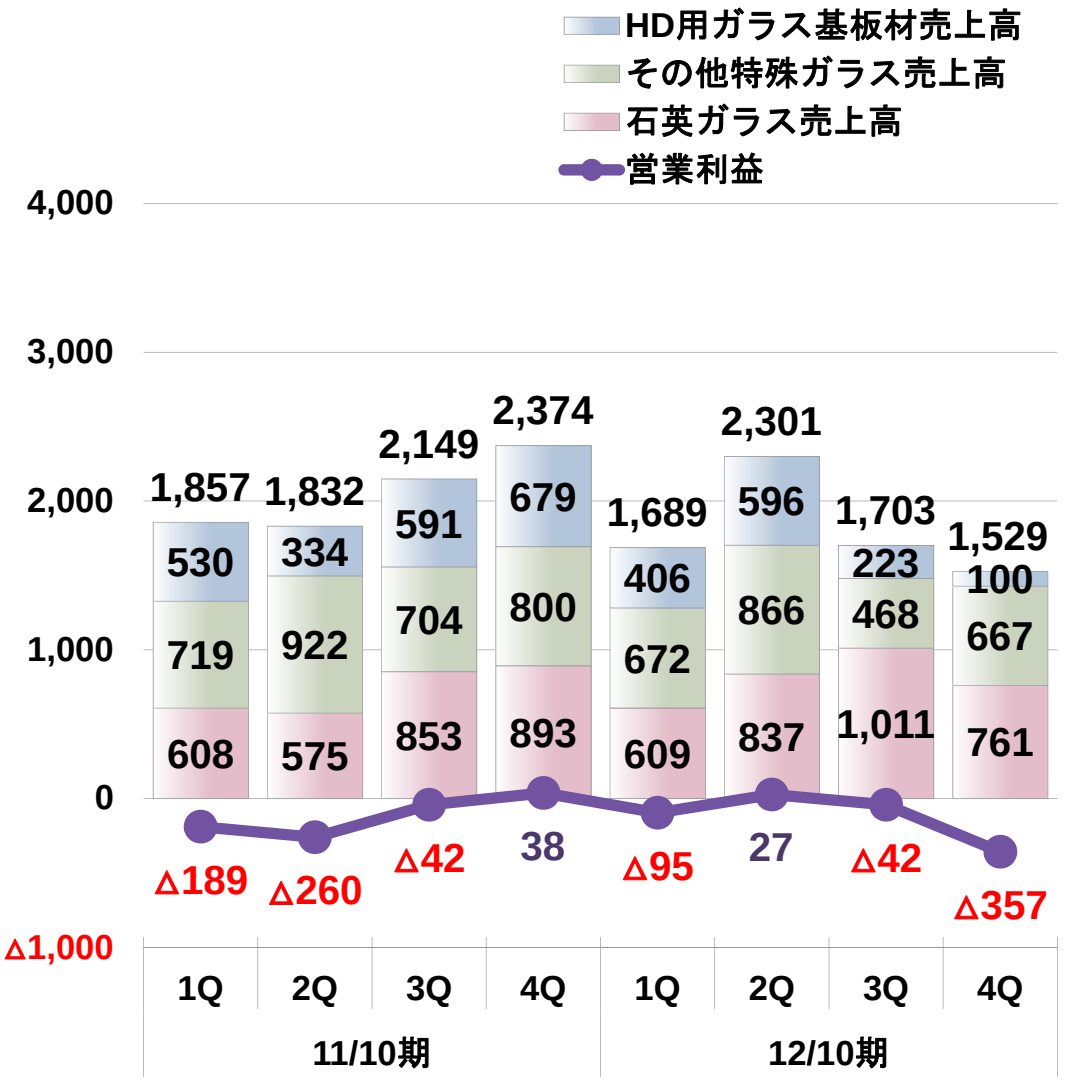
※当期よりセグメント利益の算定方法を変更
過年度は遡及修正値



<四半期推移>

（単位：百万円）

※当期よりセグメント利益の算定方法を変更
過年度は遡及修正値



Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

営業損益増減要因

株式会社 オハラ

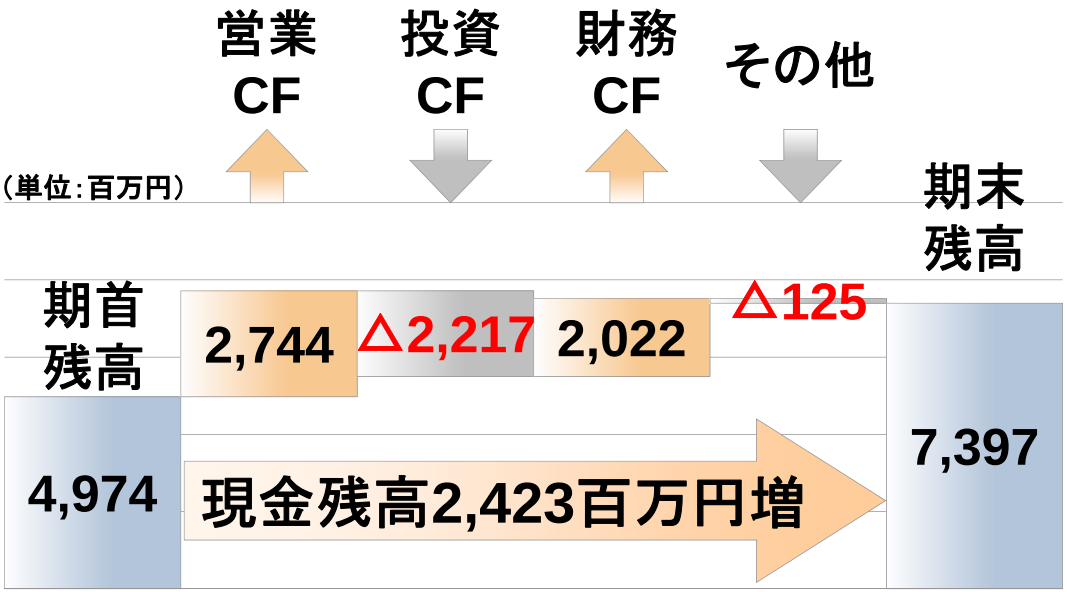
（単位：百万円）

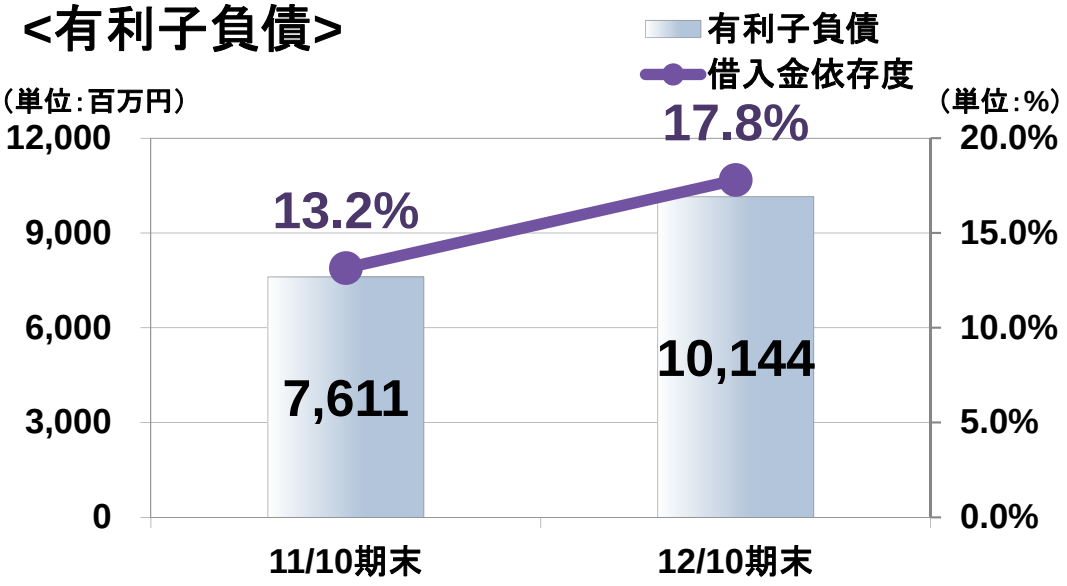
	11/10期	増減要因	12/10期
光	2,099	在庫払出 △2,000 中国材活用 900 その他 541	1,540
エレクトロニクス	△454	HD 稼働悪化 △200 HD 固定費削減 100 石英事業 100 その他 △14	△468
計	1,644		1,072

Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

キャッシュ・フロー

株式会社 オハラ





(単位:百万円)

営業CF増減主要因 (前期は△2,304)	
税金等調整前純利益	862
減価償却費	2,152
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,224
仕入債務の増減額(△は増加)	△1,851
法人税等の支払額	△611
投資CF増減主要因 (前期は△2,839)	
有形固定資産の取得	△2,700
投資有価証券の取得	△613
財務CF増減主要因 (前期は1,129)	
借入金の増減額	2,539
配当金支払額	△485

Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

2013年10月期 業績見通し

見通しサマリー

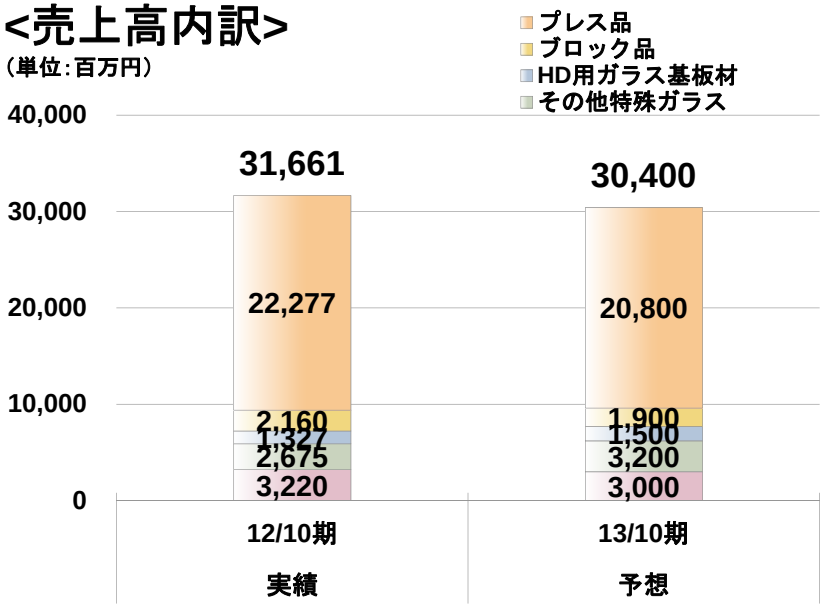
株式会社 オハラ

（単位：百万円、％）

	12/10期 通期実績	13/10期 通期予想	増減	13/10期 上期予想
売上高	**31,661**	**30,400**	**△1,261** △4.0%	**13,300**
営業利益 [営業利益率]	**1,072** 3.4%	**1,500** 4.9%	**427** 39.9%	**△200** ―
経常利益 [経常利益率]	**1,518** 4.8%	**1,600** 5.3%	**81** 5.4%	**△200** ―
純利益 [純利益率]	**475** 1.5%	**900** 3.0%	**424** 89.2%	**△200** ―
為替レート 円／1USD 円／1EUR	 79.07 102.17	 81.00 103.00	期中平均	 81.00 103.00

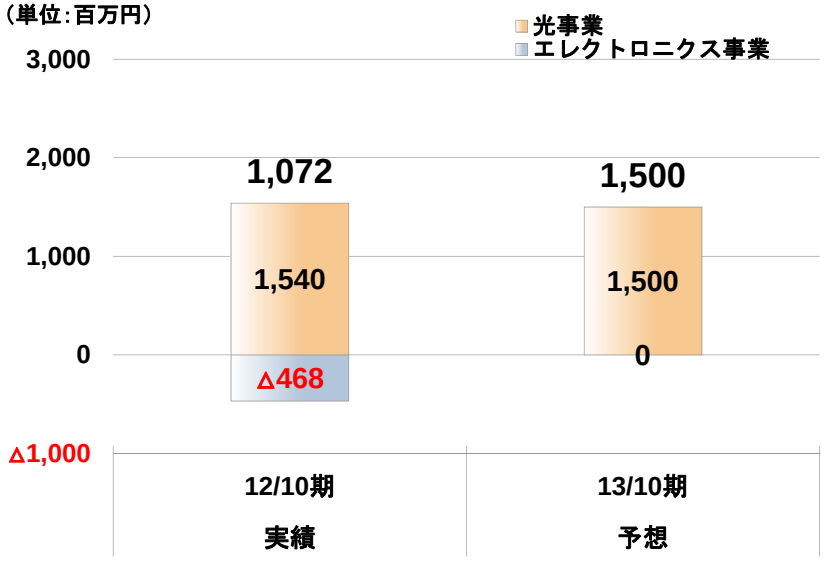
<売上高内訳>

（単位：百万円）



<営業利益内訳>

（単位：百万円）



Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

光事業見通しのポイント

株式会社 オハラ

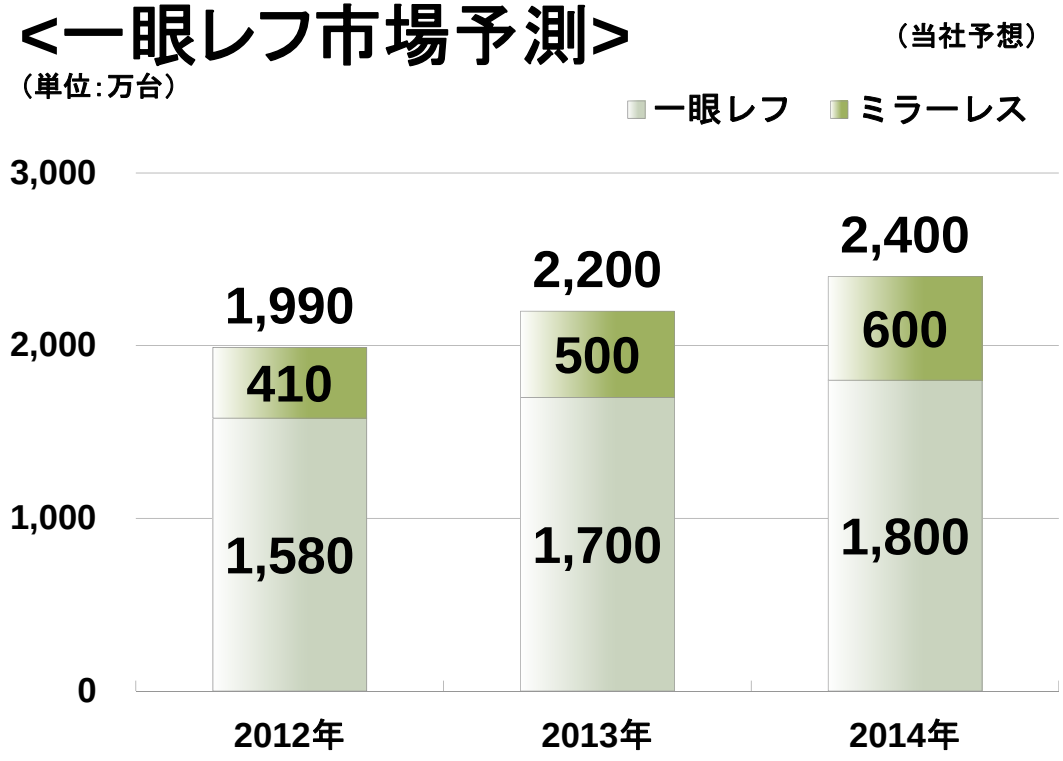
<事業環境>

- 一眼レフ・交換レンズ市場は、通期では前年比約10%の成長が見込まれるものの、足元は景気減速により生産調整局面
- レアアース原料の市場価格は、需要減少に伴い落ち着くものの、光学ガラス向け高純度品は供給量が少なく下げ止まり傾向

<当社状況>

- 光学レンズ材は、期後半には需要回復を見込むものの、期前半は工場稼働率の低下により採算悪化
- 高価な仕掛在庫の影響は一巡するものの、販売価格の改定圧力

<一眼レフ市場予測>



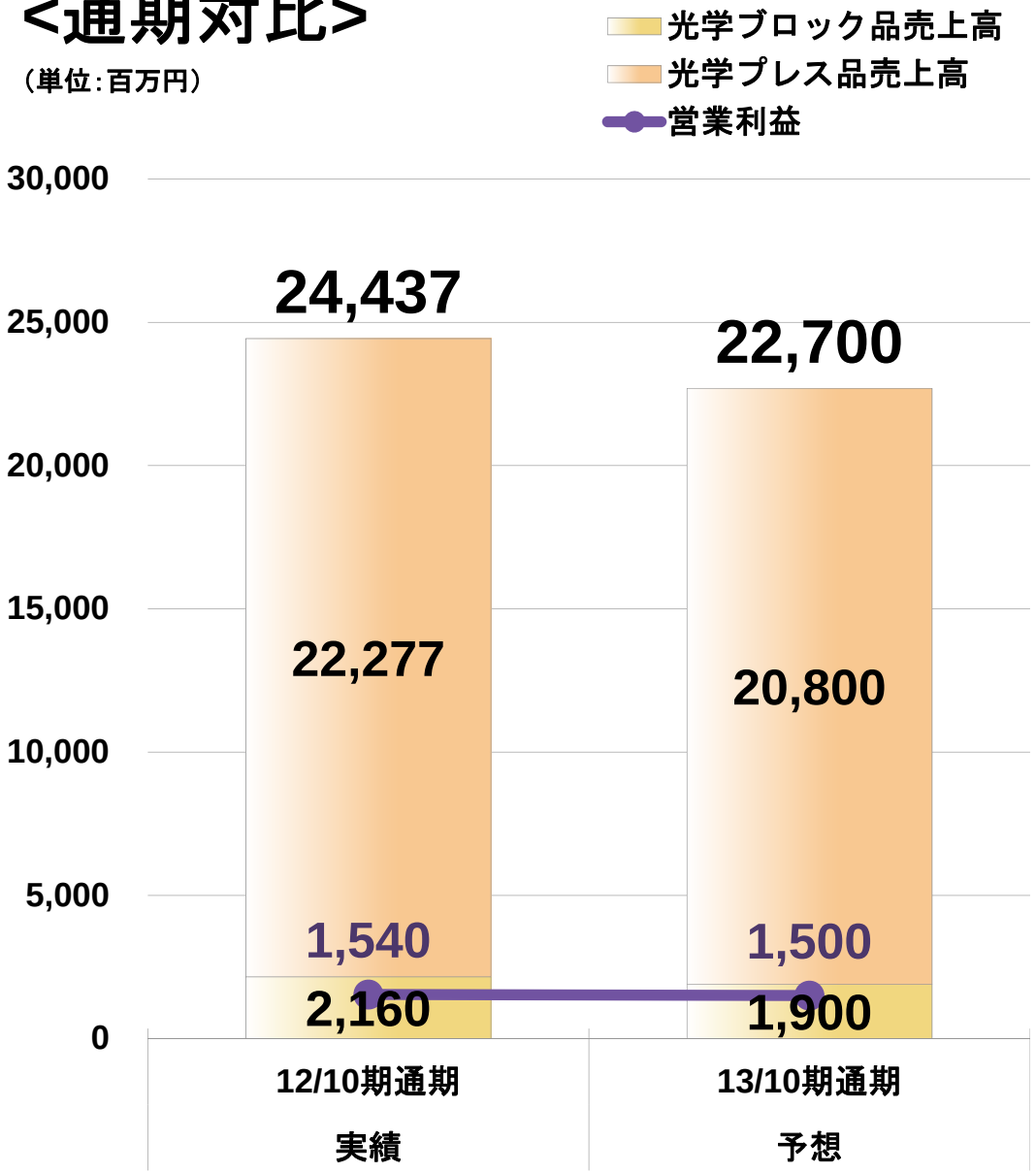
Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

光事業見通し

株式会社 オハラ

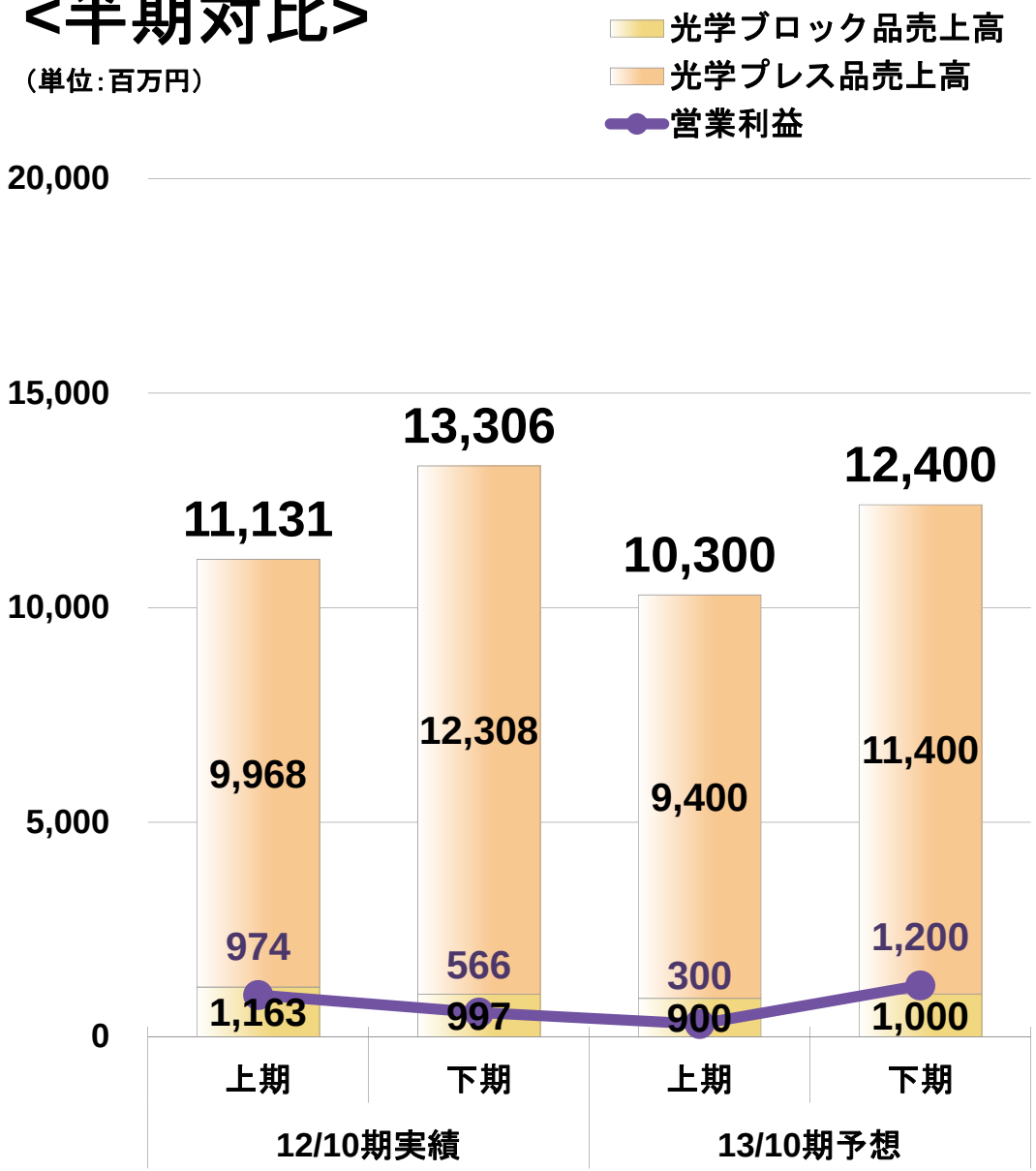
<通期対比>

（単位：百万円）



<半期対比>

（単位：百万円）



Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

エレクトロニクス事業見通しのポイント

株式会社 オハラ

<事業環境>

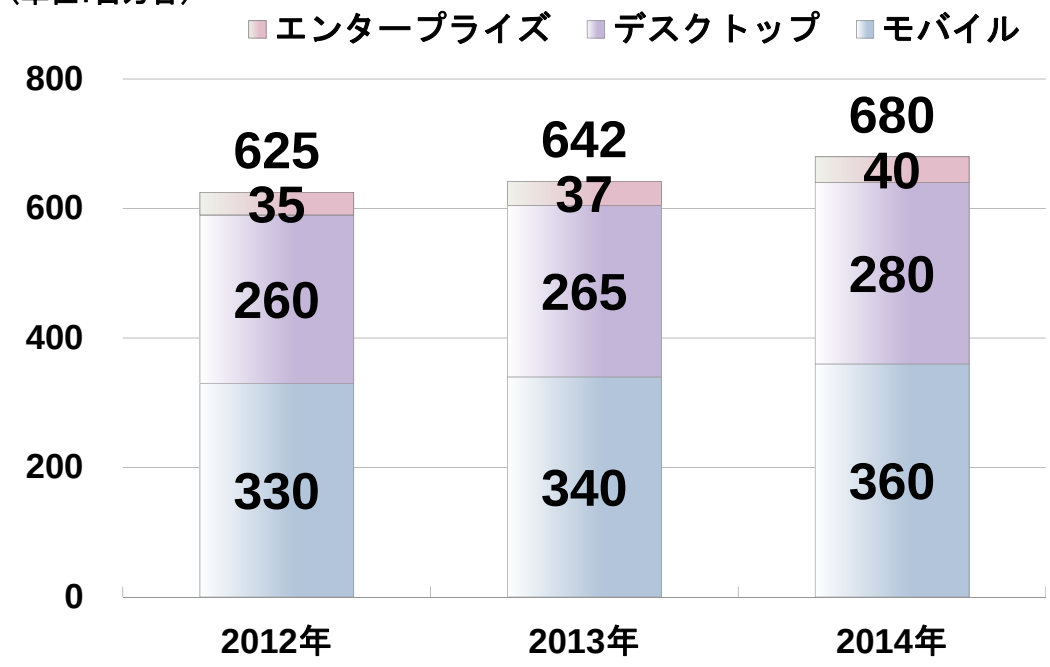
- HDD市場は、期前半に生産調整が続くものの、期後半には需要増加し、通期では前年比横ばい
- モバイルHDD向け2.5インチ基板は、500GB向けが主流に
- 液晶露光装置市場は、中小型に需要回復の動き

<当社状況>

- HD用ガラス基板材は、期後半に新規開発品で反転攻勢
- 特殊ガラスは、期後半に極低膨張ガラスセラミックスで大型プロジェクト受注獲得を狙う
- 石英ガラスは、中小型液晶基板材を拡販

<HDD市場予測>

（当社予想）



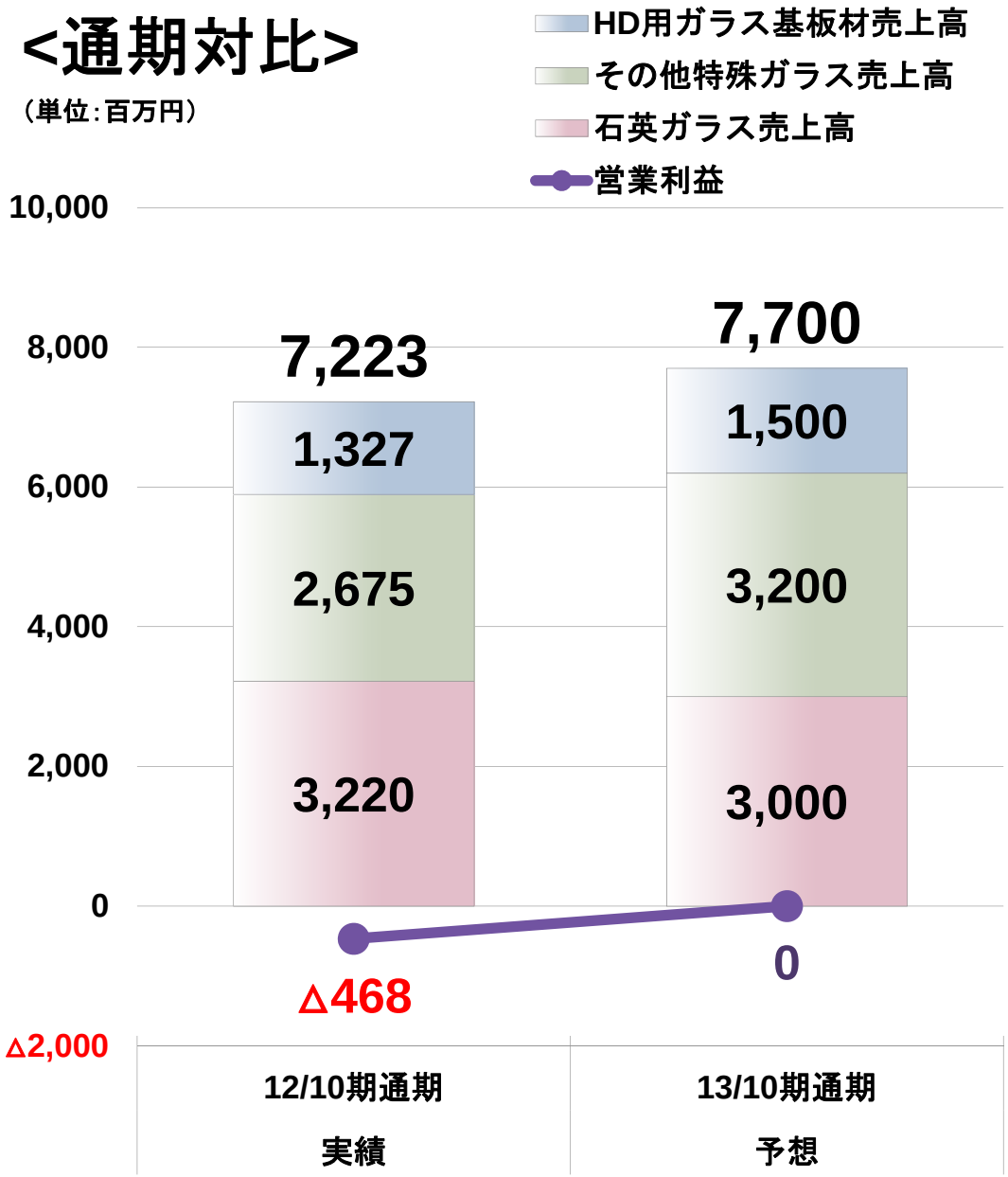
Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

エレクトロニクス事業見通し

株式会社 オハラ

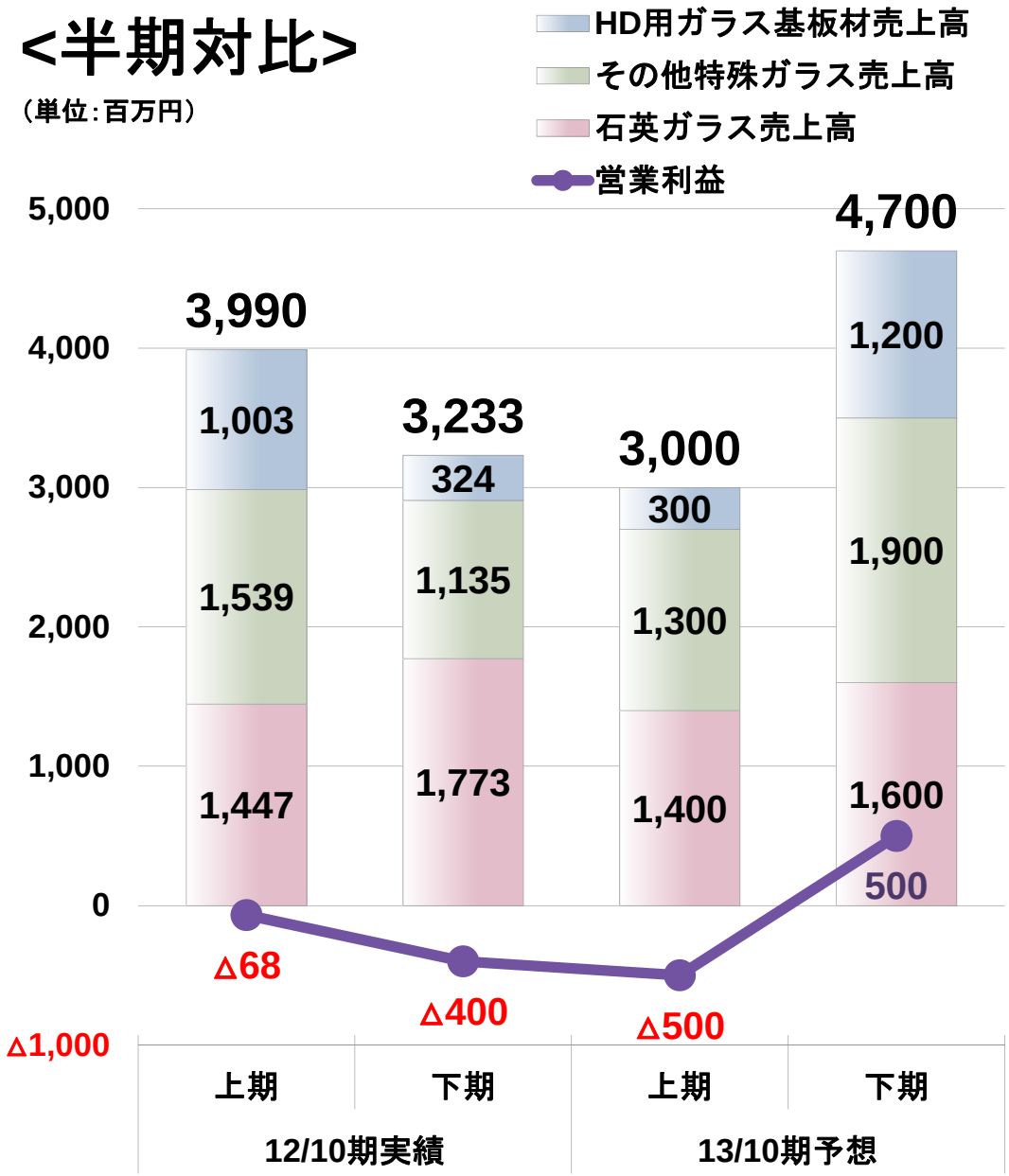
<通期対比>

（単位：百万円）



<半期対比>

（単位：百万円）



Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

営業損益増減要因見通し（イメージ）

株式会社 オハラ

（単位：百万円）

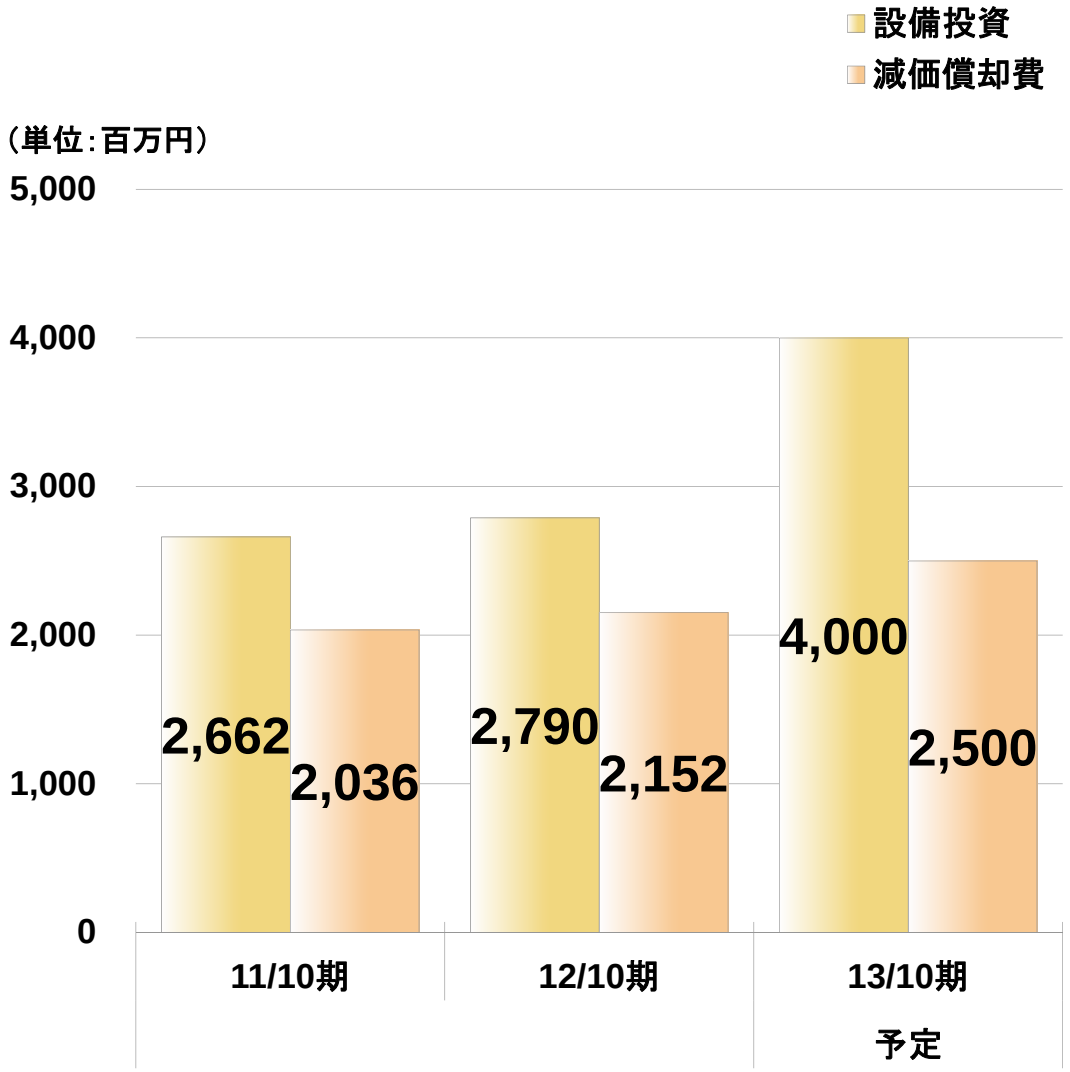
	12/10期	増減要因	13/10期（予想）
光	1,540	上期 稼働減／下期 稼働回復／原料等の 影響／その他	1,500
エレクトロニクス	△468	HD上期 稼働低迷／HD下期 稼働回復／HD 減価償却費 削減／特殊ガラス 良化／その他	0
計	1,072		1,500

Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

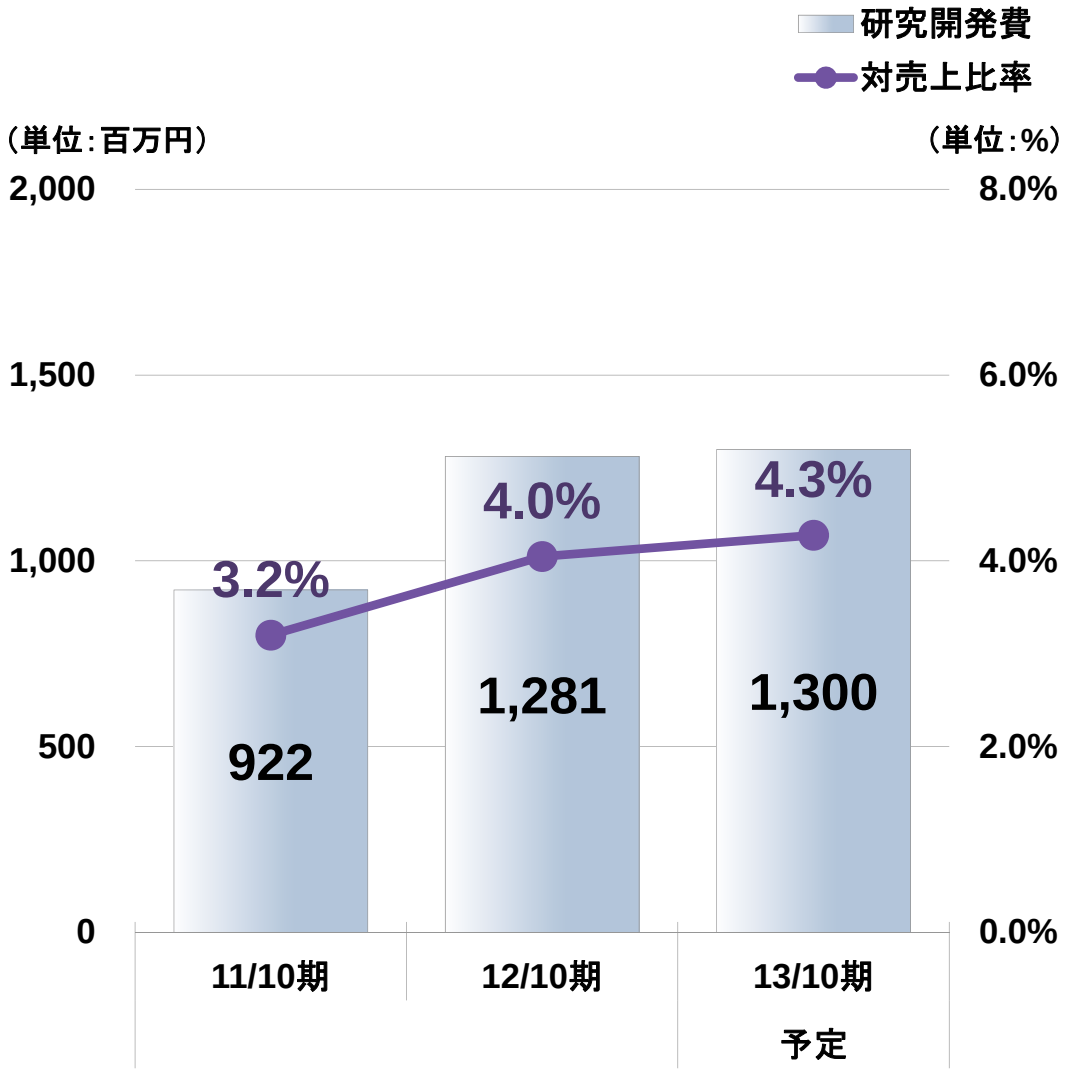
設備投資、減価償却費、研究開発費

株式会社 オハラ

設備投資、減価償却費



研究開発費



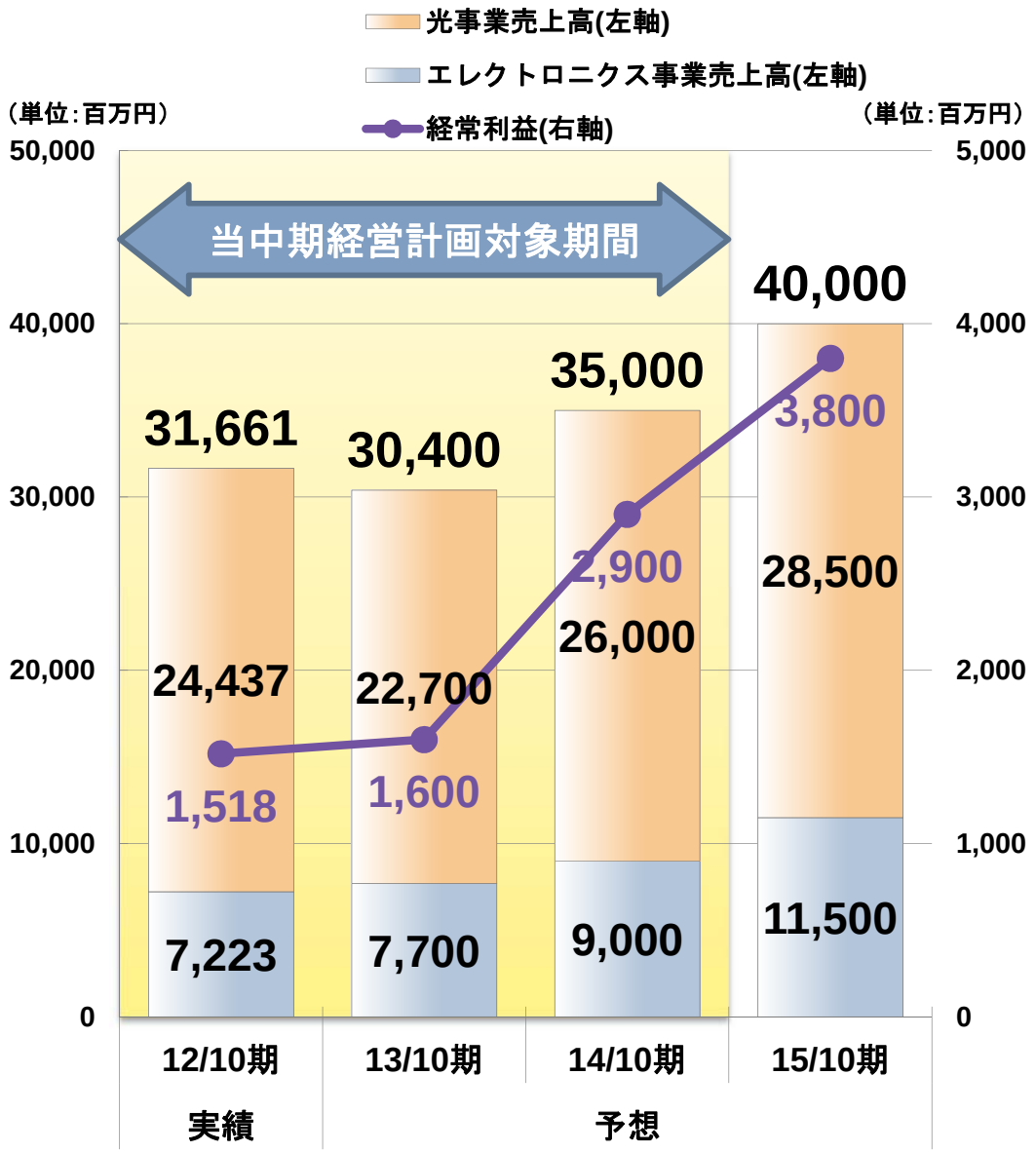
Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

中期経営計画の経営指標

株式会社 オハラ

	14/10期 目標
売上高	350億円以上
経常利益	29億円以上
総資産経常利益率（ROA）	5.0%以上
総資産有利子負債率	15.0%以下

3年間の設備投資予定：100億円



Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

トピックス：グローバル生産体制構築

株式会社 オハラ

安定供給体制を整備し
拡大する交換レンズ市場へ対応
生産量　400トン/月→500トン超/月

日本

14/10期：270トン/月

株式会社オハラ

台湾

14/10期：130トン/月

台湾小原光学材料股份有限公司
（2013年春稼動）

- リスク対応
- コスト対応
- デリバリー短縮



（完成予想図）

中国

14/10期：100トン/月

華光小原光学材料（襄陽）有限公司
（北方光電社との合弁会社）

Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

トピックス：新事業の進捗

株式会社 オハラ

リチウムイオンバッテリー（LB）事業の目標：　**次世代高容量・高安全性電池向け固体電解質・電池構成体の事業化**

（単位：億円）

用途市場規模

¥10,000

¥1,000

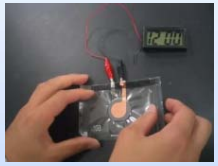
¥100

¥10

トヨタ自動車及び豊田中央研究所実施の「高性能全固体電池 研究開発事業」へ参画
（新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）助成事業）

④車載電源
（固体電解質）

小容量での電池駆動を確認
特性向上目指し研究開発中



③エネルギー貯蔵型電源
（全固体2次電池構成体,固体電解質基板）

13/10期より拡販



②小型携帯機器向け電源
（全固体2次電池構成体）

①特殊用途向け電源
（リチウム金属1次電池向け固体電解質基板）

2012年　2014年　時間　2016年　2018年　2020年

Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.

まとめ

株式会社 オハラ

- 光事業は、将来の需要拡大に対応するため、
  台湾新工場を立ち上げ

- エレクトロニクス事業は、HD用ガラス基板材において、
  当社が得意とする素材に特化

- リチウムイオン電池部材をはじめとした
  研究開発を進め、新事業育成を推進

Copyright© 2012 OHARA INC. All Rights Reserved.


OHARA